

学校の概要

学校名	瀬戸内町立古仁屋中学校					教員数
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	2 1 名
学級数	3	3	3	1	1 0	
生徒数	9 2	8 6	9 2	1	2 7 1	

研究の概要

1. 研究主題

個性を發揮し、やる気のある生徒の育成 ～つける確かな学力、育てる自立心～

2. 研究の内容と方法

(1) 実施学年・教科

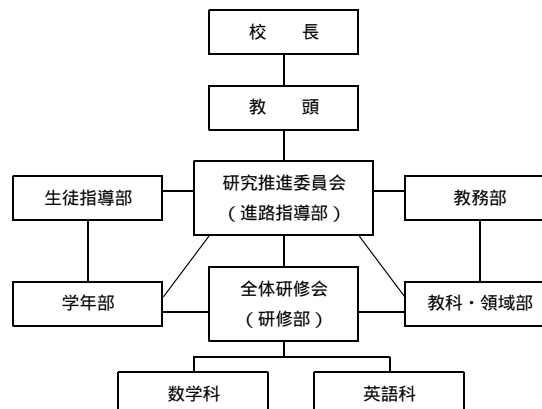
<p>全学年・学業指導（学習の構えづくり） 学力の向上を目指すためには、その基盤とも言える基本的学習習慣を身につけることが何よりも重要であるため。</p> <p>全学年・数学 本校生徒が最も苦手とする教科であり、学ぶ意欲の向上、学習態度の改善を図りつつ個に応じた指導の充実を図る必要があるため。</p> <p>全学年・英語 地区全体としても学力が低く、本校も例外ではない。学ぶ意欲の向上を含め、指導体制の工夫・改善を図る必要があるため。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年度	<p>テーマ「基本的学習習慣を身につけ、意欲的に授業に参加する生徒の育成」 研究の見通し</p> <p>(1) 生きる力と学力の位置づけを明確にし、その視点に立った学習指導を行うことで生徒の学習意欲を高め、学力定着の基盤となる。</p> <p>(2) 学ぶ環境を整え、学習の構えづくりを徹底することで、授業への集中力が高まるとともに、学ぶ意欲が向上する。</p> <p>(3) 指導方法の工夫・改善、個人差への対応を考慮した授業づくりを目指すことで、個に応じた学習指導が徹底される。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 生きる力と学力の相関関係の明確化</p> <p>(2) 基本的学習習慣の確立及び定着（授業10則の徹底）</p> <p>(3) 生徒の変容に即し、学ぶ意欲の向上を図る実践</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ「自ら学ぶ意欲を育てる学習指導の在り方」 研究の見通し</p> <p>(1) 幼・小・中・高・家庭・地域が一体となった学習指導を行うことで、学ぶ習慣が身につく。</p> <p>(2) 生徒個々の意欲や習熟度に応じた学習指導体制を工夫することで、基礎・基本の定着が向上し、確かな学力が身につく。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 幼・小・中・高・家庭・地域の連携（生活のしつけと学習のしつけ）</p> <p>(2) 基礎・基本の確かな定着を図るための指導法の工夫改善</p> <p>(3) 個人差への対応 （背景、習熟度別指導、特別な支援を必要とする生徒への対応）</p> <p>(4) 研究のまとめ</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制

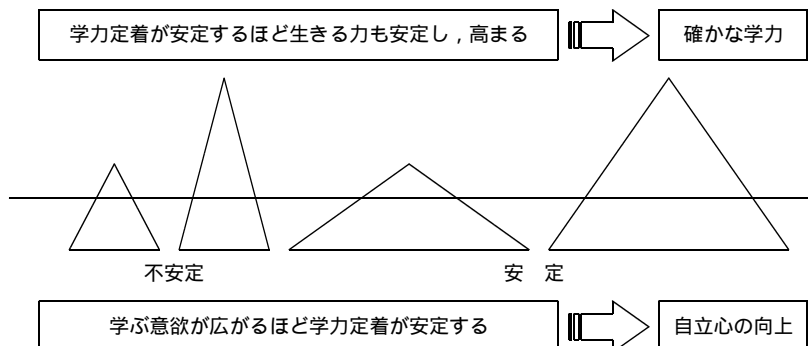


平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

(1) 生きる力と学力の相関の明確化

本校では、基礎学力とは生きる力の根底を支えるものであり、生きる力を高めるためには基礎学力の定着が不可欠であると考えた。更に、十分な基礎学力を身につけるためには学ぶ意欲の向上が不可欠であると考えた。また、自ら学ぶ意欲は自立心とつながり合うものである。私たちは、生徒の生きる力を育てるため学力の向上を目指すとともに自立心も育てていかなければならない。



(2) 基本的学習習慣の確立

教師授業10則への取組

生徒が自ら学び、やる気をもって学習に取り組むため「わかる授業」を展開していかなければならない。そこで本校では、教師授業10則を設定し、その視点に立った授業づくりに努めた。

教師授業10則	
学習の構えづくり	発問・板書
チャイムあいさつ	学習態度の徹底
学習課題・問題の提示	復習テスト・ポストテスト
学習の山場の工夫	教育機器の活用，教材・教具の工夫
学習のまとめ	個別指導・習熟度別指導

【具体的な取組】

- ・ 教師相互による授業参観を行う。
- ・ 職員研修での授業研究（英語・数学）を行う。
- ・ 学習指導案作成時には授業10則の項目を設ける。

【成果】

- ・ 全教科に共通した視点を設けたことで、全職員による充実した研修が実施できた。「チャイムあいさつ」の徹底を図るため、教師は授業開始2分前に移動を開始し、授業開始時の環境（1分前入室、机の整頓、ゴミ拾い、学習用具の準備など）が整った。
- ・ 授業10則の視点に立った授業づくりを行うことで、視聴覚機器の活用、本時の課題に即したまとめが明確となるような板書・表現の工夫、学習の要点をカード形式にまとめ、表示することで前時までを振り返りつつ本時の学習に取り組める教材・教具の活用が図られた。

生徒授業10則への取組

本校の最重要課題に「基本的学習習慣の定着」がある。中でも、授業に取り組む心構え（学習の構え）と学ぶ習慣を身に付けることは本校生徒の学ぶ意欲の改善と向上に確実につながるものと考えた。そこで、現状を直視し、課題となる項目を生徒授業10則として設定し「学習の構え」づくりに努めた。

生徒授業10則
休み時間のうちに教室移動・入室をすませよう。
服装を整えよう。
係は休み時間のうちに黒板を消そう。
決められた自分の席に着席しよう。
机のならびを整えよう。
自分のまわりに落ちているゴミを拾って捨てよう。
教科書・ノート・筆記用具を出しておこう。
タオルは机の中に入れよう。
あいさつのときはまっすぐ立とう。
私語をやめ、「お願いします」「ありがとうございました」と元気よくあいさつしよう。

【具体的な取組】

- ・ 学習の構えについての全体指導を行った。
- ・ 生徒授業10則に即した15項目の「学習に関する自己評価」を週1回実施し、集計結果をまとめ全職員で共通理解を図り重要課題を確認した。

「学習について振り返ってみよう」自己評価集計カード	
4：大変よい 3：だいたいできた 2：やや直さなければならない 1：大いに直さなければならない	
1	休み時間のうちに入室を済ませましたか。
2	チャイム時は教科書・ノートなどは出していましたか。
3	服装は整えて授業に取り組みましたか。
4	決められた自分の席に着席して授業に取り組みましたか。
5	机は並べましたか。
6	タオルは机の中に入れましたか。
7	「起立」「姿勢」「礼」の号令にきちんと従えましたか。
8	あいさつの時にはまっすぐ立ちましたか。
9	授業中は私語をしませんでしたか。
10	ノートはきちんと工夫してとりましたか。
11	横に体を向けたりせず、まっすぐに正面を向きましたか。
12	分からないことは質問をしましたか。
13	授業以外のものを出したり、授業以外のことはしませんでしたか。
14	家庭学習に取り組みましたか。
15	「お願いします」「ありがとうございました」と元気よく言えましたか。

- ・ 「1分前入室完了」を徹底するため、授業開始2分前の放送と、教師自身が1分前入室を果たせるよう心がけた。

【成果】

- ・ 自己評価を重ねることで、意識が強まり生徒授業10則の、の項目が改善された

	1年生		2年生		3年生		全学年		先週からの向上度			
	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	1年	2年	3年	全体
1	72%	28%	81%	19%	90%	10%	81%	19%	-2%	1%	3%	2%
2	65%	35%	67%	33%	78%	22%	70%	30%	-5%	-8%	-6%	-5%
3	85%	15%	90%	10%	88%	12%	88%	12%	-1%	-1%	1%	0%
4	88%	12%	99%	1%	100%	0%	95%	5%	0%	-1%	2%	1%
5	72%	28%	73%	27%	93%	7%	79%	21%	-7%	-9%	-2%	-6%
6	80%	20%	70%	30%	93%	7%	81%	19%	3%	-8%	13%	2%
7	82%	18%	83%	17%	97%	3%	87%	13%	2%	1%	-1%	1%
8	68%	32%	84%	16%	98%	2%	83%	17%	-11%	0%	5%	-1%
9	54%	46%	57%	43%	78%	22%	63%	37%	-5%	4%	4%	1%
10	75%	25%	71%	29%	93%	7%	79%	21%	-6%	-4%	4%	-2%
11	60%	40%	64%	36%	80%	20%	68%	32%	-14%	-11%	-3%	-9%
12	66%	34%	57%	43%	82%	18%	68%	32%	5%	6%	-1%	3%
13	82%	18%	67%	33%	95%	5%	81%	19%	-4%	-4%	6%	-2%
14	64%	36%	39%	61%	73%	27%	58%	42%	-1%	-6%	2%	-4%
15	64%	36%	61%	39%	88%	12%	70%	30%	-4%	5%	1%	0%

- ・ 向上の見られない項目への改善策を検討する中で、授業中の私語をしない宅習に取り組ませるといった課題が明確となってきた。

(3) 学ぶ意欲の向上を図る実践

数学科の取組

【具体的な取組】

学 年	取 組	具体的な内容
1年生	コース別学習・TT指導	基礎・発展・応用の3コースに分け、基礎コースには教師を2名配置する。
2年生	コース別学習・TT指導	
3年生	TT指導	全授業に教師を2名配置する。

【成果】

- ・ 本人の希望を十分に尊重しつつ、単元テスト等の結果を踏まえてコース分けを行った結果、自分の習熟度に応じた学習が実践された。
- ・ 基礎コースを2名の教師で指導することで、生徒個々の疑問・質問に対応できた。
- ・ T1は学習指導、T2は学業指導に力を入れることで、学習姿勢や学習用具点検、忘れ物などへの対応を効率よくおこなうことができた。

英語科の取組

学 年	取 組	具体的な内容
1年生	TT指導	全授業に教師を2名配置する。
2年生	TT指導	
3年生	TT指導・習熟度別指導	単元末に2コースに分ける。

【具体的な取組】

- ・ 学業指導を充実させるため、全授業を教師2名でのTT指導を行った。
- ・ 3年生では単元末に生徒の希望をできるだけ優先させながら学級を基礎、発展の2コースに分け、習熟度別指導を行った。

【成果】

- ・ 1学級に2名の教師が対応することで、学業指導が徹底され、授業に参加しようとする姿が見られるようになった。
- ・ 基礎コースは本時の復習学習、応用コースは本時の学習内容を活用した発展的学習を行うことで、自分の英語力を見つめ、努力しようという姿も見られた。

2. 今後の課題

- (1) 今年度は「学習の構え」づくりを中心に取り組み、学習姿勢や用具の準備に改善が見られた。しかし、学習意欲・集中力の向上については今後も重要課題として指導を徹底していく必要がある。
- (2) 基本的学習習慣の定着を図るため、幼・小・中・高・家庭・地域が一体となり一貫した学業指導の徹底と地域をあげて学力向上に取り組んでいく必要がある。
- (3) 個に応じた指導をさらに充実させるため、少人数指導の実施やコース別学習の改善、さらには本校(本町)の特色を生かした教育活動の充実を図る必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- (1) 「学習について振り返ってみよう」自己評価
学習の構えに対する意識を高めるため、生徒授業10則を設定している。その生徒授業10則の項目に合わせた自己評価カードを作成し、一週間に一度、実施した。その際、前週との比較を行い、全職員で共通理解を図った。
- (2) 定期テストにおける「ストグレ問題」
本校では、テストへの取組と基礎・基本の定着を図るため、各教科の基礎的・基本的内容をストグレ問題として出題している。その正答率を調査し、基礎的・基本的内容の度合いを把握している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 瀬戸内地区学力向上推進協議会との連携
本校を中心に町内の幼稚園・小中高等学校・教育関係諸団体などで構成し、フロンティアスクールとしての研究成果を瀬戸内町内外の全ての学校に普及するとともに家庭・地域との連携を強化することをねらいとしている。

取組	日時	内容
瀬戸内地区 学力向上推進協議会	第1回	15年11月
	第2回	16年2月
	第3回	16年5月
	第4回	17年11月
	第5回	18年2月
		フロンティアスクールの取組について今年度の実践を研究冊子にまとめる
		2年次の内容についての確認
		研究公開授業
		成果と課題のまとめ・来年度への取組

- (2) 各教科部会での情報提供
町内の教師で構成される各教科部会の中で、本校の取組と成果を紹介し意見交換と課題改善に向けた情報提供を行っていく。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
- 7～9学級 10～12学級
- 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
- その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
- 外国語 音楽 美術 技術・家庭
- 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無